

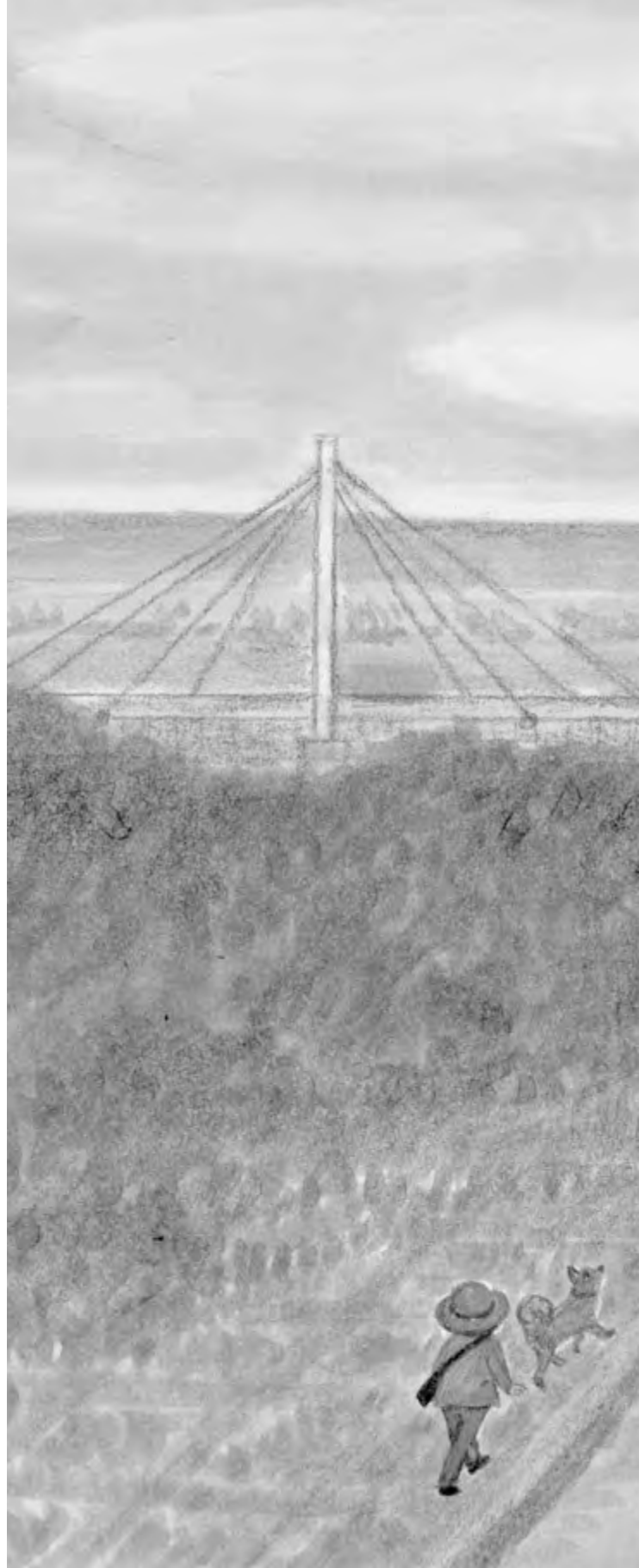
第37回

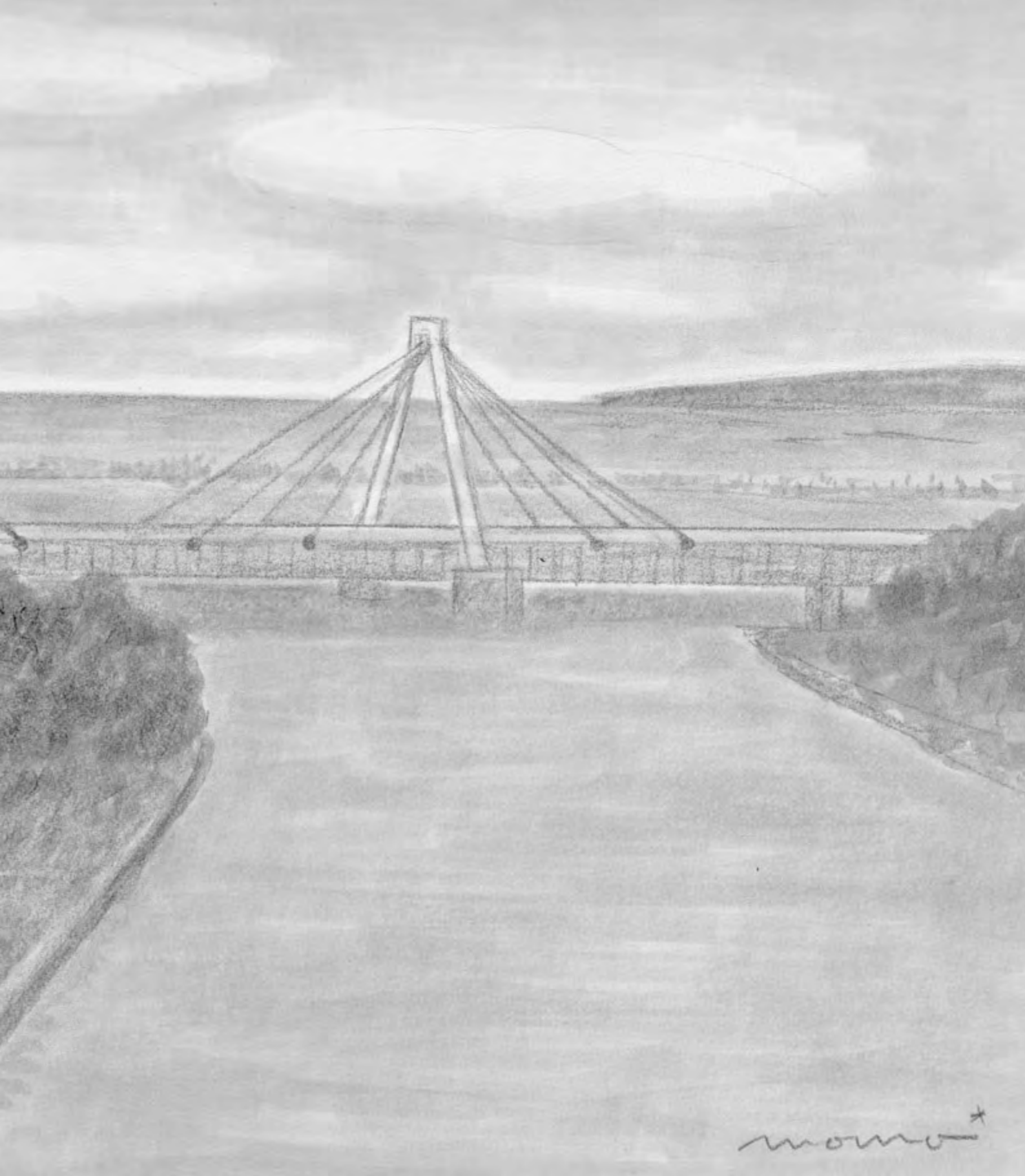
大雪山系から始まり 上川盆地から石狩平野 そして、石狩湾へ

札幌から231号線を厚田方面へ向かう途中に渡る「石狩河口橋」そして当別方面に行く時に渡る「石狩大橋」。この2つの橋を渡る時「川の幅が広いなぁ、向こうはもう海なのだなぁ」といつも思う。大雪山系の石狩岳から始まる源流は、その長さは268kmにおよび、全国3位の長さらしい。

昨年、TVで「石狩川源流紀行」という番組を偶然、途中から見たのだがその面白さに画面に釘付けになった。札幌に暮らす身としては豊平川と石狩川はとても身近な存在の川だけど、その源流のことは知らず「灯台下暗し」のような気分でもとても新鮮だった。そして改めて河口に程近い橋を渡ると、川を見る目線が変わってくる。あの1滴の水の滴りから始まり、川がまるで大地の血流のように、森や谷、田畑や街を巡り、人も大地も潤おしながらやがては海に入り、海の生き物たちに山の栄養を届けているのだ。上川盆地を流れ、途中さまざまな川と合流しつつ、石狩平野に水を運ぶ。私たちが普段食べている空知や石狩の食べ物にはこの恩恵が多分に含まれている。そんなふうに考えると、石狩川だけでなく、すべての川がとても大切なものと思えてくる。

4年前に他界した仲間がいる。彼は占冠に住み随分前から鷓川の源流から海への道を辿り、その素晴らしさを伝えていた人だ。源流を辿るだけでなく、水の循環も説いていた。海の水が蒸発し山に雨が降り、それが源流の最初の1滴になり、川となって海に流れ込む。そして、再び海で蒸発し、雨粒となって山に帰ってくるのだ。それは「命」そのもののようななぁと、しばし彼を思い出した。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「ハルルさんとひでんのカレー」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。